

平成 24 年度

第 2 回

埋蔵文化財展示室更新検討委員会

議 事 録
(要 旨)

実施日 平成 24 年 12 月 10 日 (月)

実施場所 札幌市役所本庁舎 地下 1 階 3 号会議室

平成 24 年度 第 2 回埋蔵文化財展示室更新検討委員会 会議要旨

<<会議概要>> * * * * *

1. 開催日時・場所

平成 24 年 12 月 10 日（月）18:00～20:00

札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 札幌市役所本庁舎 地下 1 階 3 号会議室

2. 出席委員氏名（五十音順、敬称略）

阿部一司、右代啓視、川名広文、越田賢一郎、小杉 康、古原敏弘、平間吉春、深澤百合子

3. 事務局氏名

文化部長	杉本 雅章
文化財課長	本間 敬規
埋蔵文化財係長	仙庭 伸久
埋蔵文化財普及啓発担当係長	藤井 誠二
埋蔵文化財係	石井 淳
乃村工藝社	福田 良一、木野 聡子、森 信博

4. 傍聴人

1 名

5. 会議次第

(1) 開 会

(2) 事務局説明

(3) 議 題

・展示室更新案についての検討（その 2）

(4) 閉 会

6. 会議資料

・埋蔵文化財展示室更新案資料 1～6

<<会議要旨>> * * * * *

1. 開 会

事務局説明

会議は、札幌市情報公開条例の趣旨に鑑み、公開で開催。また、会議要旨は、札幌市文化財保護審議会の公開に関する取扱要領に準じて取扱うこととし、要旨をとりまとめ次第、ホームページに公開し、併せて埋蔵文化財センター事務室に備え付けることを確認。

第 2 回検討委員会開催にあたり、加藤委員より、欠席の旨、連絡を受けたことについて報告。

2. 議 事

議題 展示室更新案についての検討（その2）

座 長：前回、第1回目の委員会を欠席された委員の方もいらっしゃいますが、昨年に引き続きまして、座長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、今回はよいよ展示室更新案ということになりますので、具体的な意見が示されるかと思えますけれども、議事に入る前に、第1回の議事録が皆さんのほうに回っていなかったと思いますので、まずはその確認をさせていただきたいと思えます。4人の委員の方が欠席されておりましたので、改めて事務局から概要について説明いただいて、それを了承した上で第2回ということにしたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

事務局：それでは、第1回の検討委員会の概略につきまして、事務局からご説明させていただきます。会議は、平成24年9月6日木曜日の18時から19時30分まで実施いたしました。場所は、札幌市役所本庁舎地下1階3号会議室で実施しております。出席者につきましては、越田座長、川名副座長、小杉委員、古原委員、平間委員の5名の委員と事務局全員が出席いたしました。傍聴者はおられませんでした。議題は、ひとつめが平成24年度の検討委員会の進め方について、ふたつめが展示室更新案についての検討（その1）ということで進めてございます。

議題1「平成24年度検討委員会の進め方について」につきましては、23年度に引き続いて、同体制で委員会を運営していくことの確認をいたしております。それから、24年度の進め方、スケジュールなどについて説明をさせていただいております。その後に、基本方針の策定の経緯を報告させていただいております。具体的には、パブリックコメント手続きの結果等についての報告、その後に基本方針の第5章の内容を再度確認させていただきました。なお、パブリックコメントの手続き結果につきましては、基本方針の最後にとりまとめてございます。

議題2「展示室更新案についての検討（その1）」につきましては、展示構成・展示手法についての説明をさせていただいた後、現状の展示資料、展示室が開館した平成3年以降に調査された札幌市内の主な遺跡について説明をさせていただきました。

（意見交換の主な内容について報告。詳細は、第1回検討委員会議事録（要旨）参照）

座 長：事務局から、第1回の委員会の概要を説明いただきましたが、委員の方から何か質問などございますか。なければ、後でチェックしていただくということで、今回の議事のほうに入らせていただきたいと思います。

それでは、展示室更新案についての検討ということで、ア．展示室平面計画について、イ．展示構成について、ウ．情報計画についてとなっておりますが、まず順に事務局側の案を提案していただいて検討していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

事務局：展示構成並びに平面計画について説明させていただきたいと思えます。まず、ア．展示室の平面構成ですが、展示室の平面構成というのは、展示構成とかかかわっているものがございしますので、資料1、2、3を併せてご覧ください。基本的には資料2の平面図を中心に説明させていただきます。資料1の左側に展示ゾーン、その隣に展示コーナーと示しておりますが、それぞれの展示ゾーン並びに展示コーナー名が、資料2の平面図の中に配置されております。入り口を入り、正面に「シンボル展示」、その左側の壁面に「札幌市の埋蔵文化財」という展示、その隣の壁に「センターの仕事」の展示を考えております。「センターの仕事」の右隣にも、シンボル展示といたしまして、K39遺跡の丸木舟片を展示しようと考えて

おります。動線でいきますと、その右からが通史展示、4番目の通史による体系展示です。時計回りで壁面を回っていく形になりますけれども、旧石器の展示、縄文の展示、続縄文の展示、擦文の展示、アイヌ文化期の展示と、時代順に回るような展示を行いたいと考えております。展示資料に関しましては、今、展示構成リストの中にある程度のは落とし込んでおりますけれども、基本的にここの展示は全て可変展示です。既存ケース2台を再利用する形をとっております。あわせて、現在も展示しているジオラマも再利用することを考えております。その動線の並びで次に来るのが、5番目、企画・速報展示です。ここも既存のケースを再利用し、壁面のパネルにつきましては、可変展示が可能な新規パネルを設置することを考えております。それから、動線の最後になりますが、6番目の体験コーナーです。ここは、造作等の改修は基本的に行わず、現状の展示コーナーをそのまま再利用したいと考えております。ただし、体験アイテムとして、新たに土器パズルといったものを設置したいと考えております。平面図でざっと説明させていただきましたが、資料3で立ち上げたパースをご確認いただければと思います。空間全体が現状の展示よりもかなり広いスペースをとっております。設計のポイントとしましては、可変性を重要視しております。新規の什器をつくり、壁面にシステムパネルを設置しまして、中の展示物、実物資料、解説パネル等を、基本的に全て可変で展示更新が可能なものにしていく考えです。環境負荷の低減については、照明に関してということになりますが、既存の天井についている配線ダクトをそのまま再利用し、照明器具は全てLEDランプに交換するという考えです。改修のポイントとしましては、中の什器を整備しまして、車いす等が楽に通れるような通路幅を十分に確保しております。もう1点ポイントになるのは、現状のカーペットの床を全部張りかえて、新たな空間を創ろうと考えております。

次に、資料の4と5につきまして、詳しく説明させていただきます。資料4は、新たに作るものをピックアップして載せております。まず、システムパネルですが、資料3の全体のパースの壁面の黒い部分、こちらが全てシステムパネルと呼んでいるものに変えようとしております。システムパネルは、横にスリット状の溝が切ってあって、そこに既製の演習具を改造しながら、パネル、土器といったものを展示したり、例えばサインとかキャプションというのを自由に位置を変えられるようなフックをつけて展示するという考え方です。新規什器は、入って正面の自立型パネルの奥に2台、パネルとステージがついた形の新規什器を2台、これは固定せずに展示更新の際に自由なレイアウトがきくように可動式のものにしており、裏と表にシステムパネルをつけて可変的な展示ができるようにしております。通史の新規展示ケースは、ガラスケースで覆ったものですが、こちら位置を自由に換えられる形です。照明に関しては、上からスポットを当てる考え方です。最後に、入口造作ですが、入ってすぐ正面のところを新たに更新し、N30遺跡の土偶を象徴的に展示して、正面と背面がよく観察できるようにガラスケースに入れて見せることを考えています。資料5は、検討した過程をお示ししたものです。床のタイルカーペットを新規に張り替える計画ですが、現状の展示室はライトグレーのタイルカーペットですけれども、ある程度変わった感を出したいというところがあって色の検証をしました。例えばダークブルーは、現状の壁面側のグレーとマッチングはいいのですけれども、やや寒々しい印象になります。次に、ライトブラウン系の床ですと、締まりがなく、壁とのマッチングも悪いというところで、これも没にしております。3番目に、今より濃いダークグレーの床にしてはどうかというところの検証なのですが、全体のトーンが落ちてしまって、やはり暗い感じになってしまうので、これも没にさせていただきました。最終的には、資料3のような、やや濃いブラウン色のタイルカーペッ

トを選定して貼るのが一番良いのではないかという結論になりました。埋蔵文化財ということで、土色のイメージとマッチングも良いというところで選定しています。展示室平面構成についての説明は以上となります。

座長：ありがとうございました。展示室の内容、そして構成を説明していただきましたが、まず、平面構成を中心に議論を進めていきたいと思います。委員の皆様から、感想や聞いておきたいことなどがございましたらご発言願いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

委員：資料1のところですが、一つ気になるのは、体験コーナーの「古代人体験」ですね。「古代人」というのはどうかと。それとアイヌ文化のところ、鉄器、陶磁器と具体的な展示要素を示していますが、出土資料としてはこれだけですよね。

事務局：発掘資料ですと、このほかに漆器などもあります。出土品としては鉄器がメインにならざるを得ない状況です。

委員：今回の更新で一番大きいところのひとつとしては、いわゆるアイヌ文化を入れたところで、文化財を見せるということですから、その辺り、もうちょっと何か強調するものがあればいいかなというイメージがあります。

委員：メイン展示のアイヌ文化期というのは、どのぐらいの年代のことをお考えなのでしょうか。

事務局：資料では年代まで表示していませんが、年代としては13世紀以降ぐらいになるかと考えてございます。

委員：要するに、このK499遺跡とかK501遺跡で出土しているものがアイヌ文化期だと言っているわけですか。

事務局：そうです。

委員：そうすると、今言ったK499遺跡、K501遺跡から出土した漆器も入れると、そういうことですか。

事務局：漆器の出土資料に関しては、実は余り状態がよくありませんので、展示に耐え得るものになるかどうか検討する必要があると考えています。

委員：K499遺跡はどこにあるのか。

事務局：篠路にあります。

委員：K501遺跡は。

事務局：K501遺跡も篠路です。

委員：篠路というと、具体的にどの辺になるのか。

事務局：グリンピア篠路の開発で見つかった遺跡になります。

委員：篠路といたら広いから。なぜこんなことを聞くかという、今、実は、北海道大学が新聞にこの間出ましたけれども、何千点も出てきているものがあって、もちろん漆器などはもう形がほとんどないものがあるし、漆だけが残っているというのがいっぱいあるのだけれども、だから、こちらはどういうものなのかなというのがちょっと興味があって聞いたのだけれどもね。場所がどこなのか、あるいは、どんな漆器をどう展示するのかとか、どんなものを持っているのか僕も知らないから、よくわからなくて。この間、北大から出たやつも、新聞で皆さんごらんになったと思うけれども、僕も知らなかった。だけれども、それは何十年の間、どこにあったのかもよくわからないのだけれども、トレーにして700トレーぐらい出てきて、見せられてびっくりしてしまった。だから、どんなものをどうやって展示するのかというのは、年代的にも非常に僕らも興味あるし。だから、こういう縄文時代とか続縄文、擦文と言われているけれども、僕たちにしてみれば、全国どこへ行ってもいろいろ言われるのは、北海道にアイヌってまだいるのみたいな話があって、アイヌってどんなものとい

うことをほとんど全国では知らないわけですね。そのために札幌でこういう大事な展示をするのですから、もっと先生方に意見をよく聞いて、しっかりしたアイヌの展示をしてもらいたいと思ったのでお聞きしました。

座長：今の発言の中で確認させていただくと、北大から700トレイ出ているのがあるというのは、これはどういったものなのでしょう。

委員：3分の2は、北大が人骨を収集したときに一緒に出てきた副葬品とか、博物館にあったものだ。あと3分の1は、1,000体ぐらいある人骨の中に入っていたというので、これも非常に何か不思議な話なのですけれども、2年半前から作業をやっていて、何で今ごろ出てきたのかというのは、僕らとしても不思議なのですけれども、まだ詳しくは、あと半年ぐらいかかるとかおっしゃっていましたが。トレイというのは、例えば高さが7センチぐらいで、幅が25センチ、長さ50センチぐらい、そういうトレイが700個もある。もちろん刀剣なんかも出てきているのですけれども、日本の交易でやっている刀剣ではないのです。見たら明らかに両刃で、これは大陸から来たものだと思うものがあるわけなのです。あんなでっかいもの、2年前にも北大博物館で見せてもらったのだけれども、なかったね、2年前は。どうしたのだろうと、非常に不思議なのだけれども。でも、僕は貴重な資料だと思っているのです。50年も60年も北大が持っていらっしゃったのなら、どこに置いてあったか知らないけれども、でも、やっぱりせっかく札幌でやるのであれば、その辺のところを明確にしてもらいたい。ちゃんといい展示をしてもらいたいと思います。

座長：これは埋蔵文化財であるのか、あるいは札幌から出たものかどうかというのはちょっとわからないわけですね。

委員：それは、ご存じのように、人骨の収集は樺太、千島、北海道全域からやっていますのでね。もちろん札幌周辺もあるようです。その作業をやっています。だから、その辺は、基本的には札幌市が持っているものを展示するということですね。

座長：そうです。

委員：市で発掘した遺跡は、いつどこから出たかというのがわかるわけですね。

事務局：札幌で発掘したものは全部わかります。

委員：北大とはちょっと違う。

座長：北大のものを借りるということではできませんけれども、すぐに今この計画の中でそこまで入れるのはちょっと難しいかと。

委員：これがいつ、どこのもので、どのぐらいのものなのかということが知りたかったのです。

事務局：実際に具体的な遺跡の資料や内容につきましては、次回、改めて整理して、遺跡の位置も含めて整理したいと思っています。また、篠路の出土漆器ですが、少しつけ加えさせていただきますと、出土した時点で既に塗膜部分の破片しか残っていないような状態でしたので、展示が可能かどうかも含めて検討する必要があると思っています。

座長：ここはやはり、今回、新しくつくるといいますので、いろいろ考えなければいけないと思います。もう少しご意見を伺いたいと思います。

委員：今回、博物館をつくるわけではないので、札幌市の埋蔵文化財センターの発掘した遺物を、通史の中でどう示していくかということだと思っております。ですので、あとは文化財をどういうふうに修復して見せてあげるかとか、そういうことに尽きるかなとは私と思っていますが、事務局としてはどう考えているのでしょうか。

事務局：昨年度の検討委員会の中でもいろいろご意見を伺っていますが、基本的には札幌市内で発掘した資料を元にしてどう見せていくか、どう繋げていくかということが、一番重要になって

くると考えております。

委員：今、アイヌに限定しての年代の話になりましたけれども、北海道に来られて、いろいろな博物館のアイヌ資料、アイヌ民具を見てきた人に対して、ここに置いてあるものとはそんなに簡単にリンクするものではないのだということをきちんと示せればいいのだと思います。いつからということでは、13世紀から15世紀とか、考古学的にアイヌ文化期と呼べる年代は少し幅があるけれども、いくら幅を見ても、一般に「アイヌの民具」として知られている資料はせいぜい今から150年くらい前以降のものですからね。やはりそのギャップがすごくありますから、その辺を何とか解説の中に加えていくとか、これから解明しなければならぬ部分であって、他の博物館へ行って見られるアイヌ民具と言われるものにすぐ簡単に直接結びつくものではないですよということを解説してやればいいのかなど。何となくみんな大抵どこかで、全部ひとつでくくっている面もあるので、それを少し整理できればいいかなという気がします。

座長：出てきたものはそれに繋がるものであって、年代的に近いというだけだと。

委員：幅がありますよということ。

委員：そうですね、13世紀以降でも、遺物は15世紀でもわからないわけですから、遺物にその年代を入れておけば。

委員：いきなり何百年か差があるわけですね、今のだと。

委員：そうですね。

委員：展示製品で残っているもので、どんなに頑張っても漆器の古いもの、中世までいくのはなかなかないですから。鉄製品はあるし。鉄鍋の古いのもありましたっけ。

座長：鉄鍋の古いのも14、15世紀は出ていますね。

委員：古いものを探せば、そういうふうになるので。

座長：それが札幌市に揃っているかということ、そういうのはないので。

事務局：残念ながら。

委員：あくまでも札幌市ですよ。

座長：はい。

委員：遺構が何もない、天神山チャシとか、そういうのも遺構とか何もないのですね。

事務局：先ほどから話に出ています篠路のK499遺跡、K501遺跡では、土坑墓の中から副葬品として鉄製品が出てきています。

委員：それは、アイヌ文化期とわかっているのですか。

事務局：年代的にはなかなか難しい。いつというふうには言えないところはありますが。

委員：それがメインになるのですね、アイヌ文化期の資料は。

事務局：そうなると思います。

委員：ひとつしかないわけですね、遺構としては。

事務局：K518遺跡でも土坑墓は出ています。

座長：今の発言の中にもありましたけれども、天神山とかのチャシですね。遺物は直接ないかもしれないのですが、札幌のチャシがどこにあるか。それから、発寒にも昔チャシと呼ばれていたのもありますし、そこら辺を一応紹介する必要はあるのではないかなという気がします。

委員：チャシかどうかわからないのではないですか。チャシで大丈夫なのですか。

座長：天神山ですか。

事務局：天神山に関しては、チャシという確証はないです。

座長：それならば無理に出す必要はないですね。聞かれたときに、そういうのがまだわからないから出さないのだということをごきちんと言えらるようになしておかないといけなないと思ひますね。

委員：ただ、展示は一般的なものを示すわけですから、余り突拍子もないものは展示には出さないですね。札幌にもチャンがあるぐらひはいいと思ひますのですけれども。

委員：感想ですけれども、ア．平面構成ということでは、非常にすっきりしたもものになつてゐるかと思ひます。現状では奥が二つに仕切られてゐますよね。それが、入つてシンボル展示から一歩入ると全体が見渡せて、そして一回りして全体の時代の流れがわかるということで、ここまで言われていたことが非常に単純というか、すっきりとなつてゐるのではないかと思ひます。展示構成に少しかかわつてしまふかもしれないのですが、ジオラマは続縄文ですね。これは、歴博から借りてゐるのですか。

事務局：借用してゐます。

委員：非常によくできたもものだと思ひますが、かなりスペースを裂かれてゐますよね。これ自体を可変にして、取り外したり、独立した展示スペースに変へることも期間的にできるかと思ひますので、これも可変性があるもものだという理解のもとで、この後の構成内容というもものも少し考へてみたらいかかと思ひました。あと、細かいことなのですが、この続縄文のジオラマですけれども、一部、時代考証というか、間違つてゐるところがありますね。魚たたき棒で直接水面をたたいてしまつてゐる構成になつてゐるのですね。あれは、以前から既に指摘してゐたことだと思ひますのですけれども。

委員：このジオラマを見られた植物の先生からも、ここに生えてゐるこの木は違ふねと、植生が間違つてゐるということをご指摘されました。植物の先生がご覧になつてそれを指摘されてゐましたので、私も気になりました。

座長：平面構成はすっきりしたという意見と、ジオラマの部分がかなりスペースをとるので、これを時々外すとか、何か少し考へるときがあつてもいいのではないかというよふな意見でよろしいでしょうか。あとジオラマの中身の問題がちょっと出て。

事務局：ジオラマは借りてゐるもものなので、直すのは難しいと思ひますが。

委員：時代考証云々という話とか、植生の問題とか指摘されたのですけれども、あれは、実際にはああいうもものだらうというだけであつて、イメージを出しただけなのですね。製作段階で、アイヌ文化の要素を参考としてゐますので、そういう文化的なもものというのは、続縄文時代の遺物から読み取れるだらうということで製作してゐますので、そういうことではなく見ていただければと思ひます。

委員：説明をつければいいのではないですか。説明が足りないという指摘もありましたから、それをきちんとして説明すればよいのではないですか。

委員：ジオラマで復元してゐる自体が全部変なんですから。

座長：想像の部分がたくさん入つてゐるわけですね。

委員：想像でこういう生活をしてゐるんだということをご復元してゐますから。

座長：とりあへずジオラマを使うということで、もし間違ひがあれば、何か聞かれたときのために解説を用意しておくというのが必要なのではないかなという気がいたしますね。平面構成については、今、大分意見がありましたので、展示構成にも入つてきましたので、ここで展示構成の説明をしていただけて、後ほど平面構成もあわせて議論を進めていきたいと思ひます。展示構成の説明をお願いいたします。

事務局：それでは、展示構成についてもう少し詳しく説明させていただきます。資料1をご覧ください。まず、導入展示としてシンボル展示、それから札幌市の埋蔵文化財、それとセンターの

仕事という構成にしております。シンボル展示につきましては、札幌市の代表的な埋蔵文化財といたしまして、札幌市指定文化財であるN30遺跡出土の土偶です。それと擦文時代のK39遺跡出土の丸木舟片、これをそれぞれケースの中に展示いたします。あわせて解説とキャプションを設置することを考えております。次に、札幌市の埋蔵文化財としては、編年表と札幌での発掘の歴史ということの展示を考えております。編年表につきましては、市内の遺跡分布図とあわせて、この遺跡についてはこの時代のものだというようなことがわかるような形で、編年表グラフィックと遺跡分布図を整理しまして展示したいというふうに考えております。それから、札幌での発掘の歴史につきましては、札幌市の指定文化財であります古地図、現在も展示されている複製品ですが、それを展示する考えです。それからセンターの仕事、これは現状の展示ではかなり大きなスペースを使っておりますが、少し内容を整理させていただきまして、主にグラフィックでの説明にしたいと考えております。

それから、次はメイン展示となる通史による体系展示ですが、旧石器時代につきましては、S354遺跡の石器と解説グラフィック。縄文時代につきましては、縄文時代早期から晩期までのそれぞれの土器、石器に関して実物資料を展示していくことで考えております。解説グラフィックと資料のキャプションをつけますが、その中で、縄文人の暮らし、もしくは自然観や宗教観などといったものを多少とも表現できればと考えております。続縄文時代につきましては、前期・後期それぞれの土器、石器を、オホーツク文化の資料も含める形で展示できればと考えております。続縄文のジオラマにつきましては、ここに展示をいたしますが、基本的に全て可変展示と考えておりますので、何かのときには、3分割されているジオラマのレイアウト変更は可能と考えております。擦文時代につきましては、前期・中期・後期それぞれの遺跡の実物資料を展示します。擦文ということで農耕、交易といったことも展示要素として含める必要があると思いますので、そういったことについても解説グラフィックで触れていきたいと考えております。アイヌ文化期につきましては、先ほども話題に出てしまいましたけれども、K499遺跡の鉄器、K501遺跡の鉄器、陶磁器などを展示したいと考えております。通史展示は、先ほども説明しましたとおり、基本的に全て可変が可能な展示手法をとっておりますので、まずは初期設定として考え、後から必要に応じて埋蔵文化財センターが保有している資料を入れ替えていくということで考えております。

それから、5番目の企画・速報展示ですが、企画・速報展示といっても、当然同時にやるわけではなくて、基本は速報展示で最新の発掘情報を展示するというのを考えております。それにあわせて解説グラフィック、キャプションを整理します。また、期間を区切って、何か特定のテーマを決めて企画展示を行うということも考えております。

最後の体験コーナーですが、古代人体験という言葉は、今も使っているのにここに書いてしまいましたが、この言葉については新たにもう少し考えていきたいと考えます。ここは現状の展示とほとんど変更がございませんので、今の展示構成のままです。火おこし体験と新たな土器パズルを設けるといいうぐらいいですね。それとパソコンの検索Q&Aにつきましては、既存のものを再利用するというので考えております。展示構成に関しては以上です。

座長：ありがとうございました。展示構成について何かご質問ございませんか。

委員：展示構成ではないのですが、例えば、企画・速報展示ということでコーナーをつくると思うのですが、この展示ケース内におさまらない場合の移動式のケースぐらいは一つ、二つあったほうが、いろいろな活用に使えるのかなと思ったのですが、そういうのは考えておられるのですか。

事務局：新規展示ケースをいくつか入れる計画ですが、これまで固定されていた部分を移動式のもの

に入れ替える部分もあります。基本的には既存展示ケースを活用する考えです。

座長：そうしますと、既存のもの以外にもほかの、いわゆる常設している、通史展示をしている部分のものなども活用できるという考えですね。

事務局：その辺のものも含めて、いろいろなレイアウトの構成ができるような形で考えております。

委員：別に遊びの展示ケースというのは作らないのですね。

事務局：現状では予算の関係もありますので今回の案で考えていますが、その辺りも視野に入れて検討したいと思います。

座長：予備は特にはないということで、この計画のものを利用してということになりますね。ほかに何かご意見などございませんか。

委員：体験学習コーナーと既存展示ケースは、今とほとんど変わらないのですね。何かもう少し工夫した方がよろしいのではないのでしょうか。全く同じだとリニューアルしても何か同じじゃないのという印象がすごく強く出てしまうのですけれども。体験学習コーナーと既存展示ケースの周りに少し変化を持たせた方がいいのではないかなと思うのですけれども、どうなのでしょう。

事務局：予算的な部分の説明はしなかったのですが、最低限といいますか、既存で利用できるものは利用しながらというところで考えています。今、予算という話をしましたけれども、次年度の予算要求の概要が公表されましたので、つけ加えさせていただくと、今回の展示更新の予算は、あくまで要求額ですが、1,500万円ということになります。今回お示した案は、1,500万円を前提として作成しているところがございまして、現状では、体験コーナーの部分までレイアウトを変えることが難しいという判断です。現状で中央にある大きなウォールケースが取れば大分雰囲気が変わると考えておりますので、できるだけ既存のものを活かしながらということで今回の案になっております。

委員：体験コーナーの仕切りになっているポールは取り外せないのですか。

事務局：その辺もぜひ検討課題の中に入れさせていただければと思います。

委員：変わりますよ、それを取れば。

委員：空間を利用するのだったら無い方がいいかなと思います、私も。ただ、1,500万円までどこまでできるかとなると。

座長：取り外すのもお金がかかるわけですね。

委員：床面積はどのくらいでしたか。

事務局：約174㎡です。

委員：割り返すと平米幾らぐらいですか。

事務局：おおむね8万円くらいかと。

委員：8万円くらいですか。厳しいですね。普通、家を建てるのも8万円ではちょっと厳しいかなと。どこまでできるか厳しいですね。

委員：今の話に関連してなのですが、体験コーナーに柱があるということですがけれども、角の一つを外すくらいならできるのでは。そこにアールをつけるだけでも自然と奥行きが出るようなイメージですし、あとはフロアの色調を変えることで少し柔らかみが出るかなというふうに思います。

事務局：その辺りも工夫して検討したいと思います。ただ、体験コーナーだけほかと床材が違うので、対応を少し考える必要があります。

委員：予算がかかってきますね。

座長：今意見が出たアールをつけるだとか、全部取り払うにしても、何か工夫できないかとか、少

し体験アイテムを増やすとか、そんなにお金がかからないと思いますので、何かそういったことで少しアクセントをつければ、ここも変わったんだなという印象があるのではないかという気がします。

委員：体験のところちょっと聞きたいのですが、土器パズルをつくるということですが、市販のパズルを置くのですか。

事務局：特注というか、作ることを考えています。

委員：作っていただいた方がいいと思います。市販のものを持ってきて、弥生土器とか、ああいう磁石でくっつくパズル売っていますよね。あれはちょっと勘弁してほしいなと思っていて、やっぱり札幌市がやるからには。

事務局：土器パズルは、擦文などの本物の土器の型をとって製作したいと考えています。

座長：体験コーナーの部分というのは、いろいろな工夫ができるところだと思いますのでね。でき上がってからも変えられると思いますし、そういう何か含みを残せるようなものにしていったらいいかなという気がします。ほかに何かありませんか。

委員：ここに編年表とありますよね。メイン展示の方でも関係するのですが、展示室に来られる方からの質問で非常に多かったのが、こういった時代区分の絶対年代というか、具体的にいつ頃の時代なのかという質問ですね。縄文時代は長いスパンがあるのだけれども、縄文時代の始まりというか、以前より古くなりましたね。旧石器時代というのも長いと思うのだけれども、具体的に旧石器時代というのはどのぐらい続いたのか、そういうことをできるだけわかりやすく見せた方が良いでしょう。札幌市で一番古い遺跡が見つかって、札幌市でも人間が住んでいた証拠は何遺跡だとか、そういうふうに言うのがすごく、ああ、なるほどと理解してもらえる。その辺が、素人と専門家の方々の間での時代に対する感覚が違うと思うのです。例えば古い話で、アフリカのジンジャントロプス・ボイジイというのが、万博で175万年前とはっきり書いているのです。それは証拠があるのかないのかわからないのだけれども、何かひとつの年代を表示した方がいいのではないかと。先ほどのアイヌ文化というのも、我々も13世紀頃かなというイメージで理解しているのだけれども、厳密にもっと古くまで遡っていけるのではないかと、できないとか。編年表を資料として見たときに、今の時点では大体このくらいだと、この幅はこのくらいの範囲で理解しているということではなくて、聞いていいよという、何かそういうのがすごく欲しい気がするのです。特に北海道は独自の時代区分があるわけで、恐らく研究が進めば、もっとはっきりこの辺からとか、この時代と言えるのかもしれないけれども、今の時点で続縄文時代というのは大体北海道でいつ頃からいつ頃までを言っているのだと。本州では弥生時代と呼んでいるところを、北海道では続縄文時代という言い方をしているのですよと言う以外に、続縄文は紀元前何世紀頃からだと説明できるようなことがあればすごくいいなと思って聞いていました。

座長：今の編年表は年代が入っているのですよね。

事務局：現状の展示室では、編年表は展示していません。配布用の展示解説で編年表を示しているだけです。今回の更新で、そういった編年表も含めて展示する形にしたいと考えています。

座長：そうすると、今の要望というのは、ある程度反映されるわけですね。ただ、そこに何か工夫が欲しいというのが今のご意見でしょうか。

委員：きっちりした数字とは言わないが、やはり、いつ頃のものなのかという意識がすごく強いのです。ましてや先史時代といえば、全く文字で記録が残らない時代だなというイメージで見ているものですから。だから、そういう方々に少しでも、大体この範囲で、この時代だよというようなことがわかるようなものが欲しいと。

- 委員：編年表を入れる位置ですが、旧石器時代の前に入れて、そこから上にずっと年代を入れて表示すれば、見た人がすぐわかるようになりますよね。そういう工夫はできますよね。
- 座長：時代のところに何百年前とか説明を入れるような形ですね。
- 委員：今、構成が中心でよろしいのでしょうか。もちろん内容と関係してしまうのですが。
- 座長：かなり立ち入ったところの話でもいいと思います。
- 委員：そうしましたら、今ご指摘があったとおりで思われるのですね。編年表でやると、たくさん新しい情報がありますから、それを書こうとすると時間が短い新しい時代ほどスペースをとってしまって、古い長い時間ほど押し詰められてしまうというところで、普通に書くと変なことになってしまいます。実際の時間の長さを示したものと、そこから引き出す形で表示する編年表がありますよね、具体的にはそういう工夫をやらばいいかと思うのですね。もうひとつ、ぐるりと表示するというのもありますけれども、デザイン的に良い編年表が最初に展示してあれば、そのいろいろな言葉を抜いたスケールのものを各ケースに示して、該当する土器なり石器なりのところをマークするというような、統一したスケールラインをすれば、そういう工夫もできるのではないかと思います。
- 座長：各時代の色を決めるとか、そんなこともできるでしょうね。
- 委員：全体の中のこの位置というのがあれば、解りはいいと思うのですね。ですから、グラフィック的な、模範的なスケールを示しておいて、この資料はこの色と同じで、これはここというものの方が、むしろ空間的にイメージできるのではないのでしょうか。
- 委員：簡単なカード式の年表みたいなものを展示のところに置いてもいいです。
- 委員：ちょっといいですか。私が言いたかったのは、そういうような、あまり厳密な意味での時代区分にこだわらないで全体の展示構成を考えるのであれば、私はそれでいいと思うのです。それは、今の時代そこまで細かく言えないのだと、まだまだこの辺についてはいろいろな説があるのだということですね。例えば、縄文時代はいつから始まったかということについては、定説はあるのですか。
- 委員：定説は、北海道ではどうしようかというのがあります。
- 委員：北海道の縄文時代ということですね。全体的な縄文時代も。
- 委員：全体も含めて。
- 委員：あります。今、ご指摘があったような意味での年代というのはかなり確定していると思います。問題になっているのは、始まりをどこにするかという見解の相違があって、ある対象物は何年前だというのは、かなり研究が進んでいまして、今、一般の方が要求される、知りたいと思う内容では答えられると思います。それをどううまくわかりやすく情報として提供できるかということだと思うのです。
- 委員：やはり今いろいろなご意見が出ているように、アイヌの話をするときに、アイヌっていつからいたのとか、今もいるのとか、必ずこれほどどこへ行っても全国で聞かれる話なのです。だから、こういうような編年表をお作りになるのであれば、それは必ずしもいつからいつまでということではできないにしても、石器時代はこのくらいで、いつから縄文時代が始まって、次は擦文に入りましたよと、本州と明らかに違うわけですから、そのところを解るようにしてもらいたいし、アイヌというのはいつからいて、いつまでいたのという話を解るようにしてあげるのが本当は親切だと思います。これはお願いです。
- 座長：やはり、その辺も考慮しなければいけない部分だろうと思います。ほかに何かございませんか。それでは、最後の説明をしていただいて、また後ほど議論をしたいと思います。よろしくお願いたします。

事務局：それでは、ウ．情報計画についての考え方の説明をさせていただきます。資料6をご覧ください。今、時代の表示をどうするかというようなことのお話が出てしまいましたが、多少のことは考えられます。まず、解説計画のリニューアル案としまして、考え方のポイントですが、ひとつ目は、わかりやすく、既存の展示室に新たな知見を盛り込んだ形での情報の再構築をしたいと考えております。それと情報階層の明確化。概略を説明するというような情報と、中身を詳細に説明していくという情報の階層部分をきちんと明確にしていきたいと考えております。それから、通史の流れを今度の展示ではきちんと明確に表示していきたいと考えております。

ポイントの2番目としては、面白くということで、やはり展示室の主演となるのは実物の資料かと思っておりますので、「もの」の解説を充実させたいと考えております。あとは調和と統一感ということなのですが、全体の展示を通してばらばらにならないような形でデザインを統一していきたいと考えております。

3番目としては、やさしさ。可変展示ではあるのですが、パネルの設置位置の高さの問題ですとか、文字サイズの問題ですとか、どのような形でルビを打っていくかなど。それと外国語表記に対する対応ですけれども、少なくともパネルに関しては英語の併記をするということで考えております。検討事項としましては、ひとつは、解説レベルの設定。小学校高学年が読んでわかるレベルを基本としたいと考えております。それから詳細な情報、より詳しい、例えば専門的な知識ということになりますと、補足情報として、別途紙媒体のものを用意していこうと考えております。それから、外国人利用に対する情報の提供ですが、解説パネルのタイトル、それから資料名等には英文を併記します。また、解説パネルの情報については、要旨を英文で併記させていただくと。それ以外の言語につきましては、中国語とか韓国語とかということになると思いますが、別途パンフレット等を用意していくということで考えております。それから情報の更新性につきましては、常設展示の資料入れ替えや新たな調査成果、それからテーマを決めた企画展示など、最新の情報提供ができるようなツールを用意しておきたいと考えております。2番目でも触れましたが、新たな情報提供をするたびにデザイン性とか統一性がばらばらになることがないように、基本的なフォーマットやツールといったものを用意しておこうと考えております。

それから、情報計画の構成ですが、右上の図と併せてご覧いただければと思います。A、B、C、D、E、補足情報としてF、Gを用意しておりますけれども、Aはゾーンタイトル、資料には例として仮のタイトルを表示しております。Bはコーナータイトルで、旧石器時代とか縄文時代とか、そういったコーナータイトルが入ってきます。Cは、解説グラフィックの大です。大きな解説グラフィックになりますが、例えば縄文時代であれば、そのテーマを解説する情報パネルです。その中には、縄文時代についてという解説がもちろん入りますけれども、時代のインデックスというか、縄文という時代を表示するだけではなくて、旧石器からアイヌ文化期まで至る長い時代区分の中のここに当たりますよというようなインデックスをそこに付けたいと考えております。もちろん縄文時代なら縄文時代を説明するための図版や写真といったものが入ることになります。Dは、解説グラフィックの小です。これは基本的には実物資料の解説になりますが、例えば遺跡ならその遺跡についての概要、どこから出た何という資料ですというようなことの解説が必要になると思われますので、そういったものを用意する。図を見ていただくと大体の大きさがわかると思いますが、このようなバランスで考えております。Eは、それぞれの資料のキャプションです。これは、基本的な資料名称、資料の年代、発掘場所というようなことを表示します。Fは、補

足資料として、より詳細な情報を紙ベースで用意するものです。Gは、他館との連携ということで、他施設の情報などを別途パンフレット等の形で用意する考えです。全体の情報計画としては、以上のような階層で考えております。事務局からの説明は以上です。

座長：ありがとうございました。それでは、解説計画の現状と申しますか、情報をどうやって伝えるかという意味でのご意見がありましたら、出していただければと思います。

委員：全体的な印象にもつながるのですけれども、考え方のポイントの2番目に「面白く、調和と統一感があり興味を引くデザイン」と書いてあるのですが、資料を見ても興味を引くようなデザインには見えない。もっと斬新なデザインにしないと。

事務局：まだデザインはやっていませんので、恐縮ですが。これは一例として示しているものです。

座長：デザインの部分も、委員会の中での検討事項に入るのでしょうか。

事務局：基本的に、デザインは実施設計の中に入りますので、検討委員会の中でデザインの話まで踏み込むことはしないと考えております。

座長：そうすると、要望事項ということになりますね。

委員：要望ということでしたら、もっと明るく入りやすいようにしていただければと思いますね。

委員：当然わかっていると思いますけれども、健常者の方ではなくて、色弱の方とかそういうことの配慮も、カラーデザインも含めて入れるべきかと思えます。

委員：釈迦に説法になってしまうし、予算のこともあるのでしようけれども、考古学者の立場としては、例えば丸木舟が出たときの状況とか、最近ですとデジカメで撮っていると思いますので、ぜひ、デジタルフォトフレームを各所に置いていただきたいと思えます。今はそんなに高くないですよ、動画も見たいなと思えますし。一般的には竪穴住居の完掘状況などがよく展示されていたりしますけれども、普通の子供は、どうやって掘られるのかというのを一番知りたいのですね。最初にどう確認して、遺物の出土状態、柱穴の位置がくっきり4本出ているとか、そういうのをフォトで見せるとかなり情報は多くなるのではないかと思いますので、ぜひデジフォトフレームを数台お願いしたいなと思えます。

座長：今、デジタルをどう使うかという問題がありました。ほかに何かこういったことも含めてごさいませんか。ここで、ゾーンタイトルからキャプションまでというようなアイデアが示されましたが、こういったものについてはそんな大きな問題はないだろうと思えます。

委員：デジタルフォトフレームは消耗品ですからね。展示の中で映像とかそういうのはお願いできるのですけれども、それでも消耗品でせいぜい2年か3年しかもたないもので、どんどん更新していくしかない。恒常的に映像を流してしまうとせいぜい2～3年ですね。そのぐらいですよ。

事務局：3年はもたないです。

座長：垣の島のところにある縄文の展示施設で、フォトフレームを随分使っていましたね。

委員：毎日流していたら、1年でだめになってしまう。

座長：ちなみに、幾らぐらいのものなのですか。

事務局：金額は安いのですけれども、映像を入れ込んだとしても、5～6万円あれば作れるとは思いますが。ただ、電気を使うものだと配線の関係も出てきてしまうので、その辺の検討が必要かとは思いますが。

座長：例えばですけれども、大きく引き伸ばした写真などを壁に貼るとかということは構わないのですか。遺跡の映像とか遺物の写真とかを壁に貼ることは。

事務局：それは可能だと思います。

座長：予算との関わりがあるかと思えますけれども、そんな工夫もあってもいいし、お金を掛けず

にできることはたくさんあると思います。今、いろいろとアイデアが出てきましたが、少しこれからの進行について事務局にお伺いしたい。次回の検討というのは、もう少し細かいところの話になるのでしょうか、それとも、あくまでもどこそこの遺跡の資料を展示するという程度で終わるような形になるのでしょうか。その辺りについて、次回に向けての検討事項をはっきりさせておきたいと思うのですが。

事務局：展示資料につきましては、遺跡の概要を含めて整理したものをお示しするつもりで考えております。

座長：資料1の内容をもう少し詳しく整理したものという理解でよろしいですか。

事務局：そのように考えております。

委員：今、基本設計をやっているのですよね。基本設計のための議論ですね。

事務局：そうです。

委員：シナリオの検討になると実施設計の段階になってしまうので、そこのところはきちんと分けておいた方がいいと思います。こんなものが展示されるのだよというのは、何か映像で見せていただければ、皆さんもイメージが掴めると思います。今は、その段階だと思いますが。

座長：基本展示計画というのは、どういった遺物がこのコーナーに並びますという、そういうイメージまででいいわけですね。

委員：そうですね。

座長：ですから、今度示していただけるのは、こういった土器が並びますとか、解説にはこういう解説が入りますというような大体の説明の内容という形で理解してよろしいでしょうか。皆さんもよろしいですか。

委員：要望なのですが、今回、この構成リストの展示コーナーのところに、各時代ごとに、例えば縄文時代ですと縄文時代の人々の暮らしについて解説するとかあるわけですが、これまでも議論になってきたところで、札幌という地域の縄文だったら縄文らしさというのをどう表現するかというのも必要だと思うのですね。ですから、次回具体的に示されるのであれば、そういうことも配慮した形で資料を用意していただければと思います。というのは、これまでの縄文時代の展示といえば、土器と石器がほとんどで、土製品と装飾品が少しあって、縄文時代の人々の暮らしといたら、非常に静止画的な映像に、例えば狩猟をしてという話での展示になってしまうことが多いのですが、そうではなくて、通史展示というのは、単に時代を並べるというだけではなくて、縄文文化の中でも非常に長い時間の経過があって、その中で、それをどんなふうに展示するのかということだと。かつてここで議論が出たのは、札幌の特徴としては、沖積地が形成されて生活環境が変わっていき、地形が発達することと、人類活動が非常に結びついている面白さがあるというような発言が出ていたと思います。そういうのも少し配慮した形で、実際の展示資料はどのようなものが良いのか検討していただければ、より札幌市でやるという特色が出てくるのではないかと思います。

座長：縄文時代の暮らしや続縄文の暮らしなど、一般的な話になってしまわないよう、札幌をどう活かしていくかということをはっきり出してほしいという、そういう要望ですね。これは、昨年の委員会の中でも議論した、札幌のらしさをどう出すのかということですね。

委員：展示構成の資料ですが、この中で、これまでの委員会で出された意見の何がどこに反映されたのか、ということを示していただければ、委員会の意見がどう展示に反映されているというのがわかるし、内容としてどこが変わったのかということも表示できれば、わかりやすい資料になると思います。

座長：今の展示と今度の展示がどのように変わるのかということ、やはり基本計画の中で謳う必

要があると思いますので、それがわかるような資料を3月までに作れば良いと思います。それから、私からもいくつか要望があるのですが、埋蔵文化財センターの仕事の部分で、発掘をするということも遺跡を壊すということですから、やはり札幌市として遺跡をどう守っていくのかという姿勢と申しますか、今の埋蔵文化財発掘、札幌の埋蔵文化財行政、そういった指針のようなものを入れていただきたいと思います。そして、展示の一環として他のいろいろな施設もあわせて紹介していく。これは先ほども意見がありましたが、ただ単にパンフレットを置くのではなくて、この展示といろいろな施設がどう関わっていくのかという部分ですね。ですから、アイヌの関係でしたらアイヌ文化交流センターサッポロピリカコタンとの関係ですとか、北海道埋蔵文化財センターや北海道開拓記念館などとの関わりとして、この資料をより詳しく見たい方はここへ行ってくださいといった表示を行うとか。それから、私は一番の関わりが図書館だと思うのです。前にも意見が出ていましたけれども、同じ建物内にあるのですから、図書館の参考書を持ってきて並べるなど、そういった図書館を巻き込むような動きができれば、お金がかからない部分で提携ということができると思います。もうひとつは、北海道大学の発掘資料が大学内に展示されていますが、北海道大学の中は別ですよというのではなく、やはり札幌市内の遺跡ですので、北海道大学にはこんな資料が展示されていますということも表示する必要があるのではないかと思います。少し長くなってしまいましたが、私の個人的な意見として聞いていただければと思います。

委員：やはり、札幌市埋蔵文化財センターの役割は何なのかということを出してほしいですね。

座長：ほかにもう少し意見はございませんか。

委員：いろいろあるのですが、ひとつバックヤードをどう見せるかというのがあると思うのです。前にも言っていると思いますが、収蔵庫や資料整理の作業状況などを、仕事に差し支えない程度に見せていただければ。発掘現場はやっていないと見られないので、センターの仕事ということで。やろうと思うと、これは大変ですけれども。

委員：どこで発言しようか迷っていたのですが、展示構成、平面構成に少し関係すると思う部分を言わせていただきたいと思います。今、座長のほうから、これまで何度も議論が出ました他館との連携、あるいは図書館との連携をどう作るのかということで、今回、資料6のGという形で提示していただいたということですよ。資料は参考の写真だと思いますが、これだどどこでもありますし、パンフレットを置くだけだと本当に面白くないものになってしまうので、これをデザイン性も含めて何か魅力的なものにして欲しいと思います。置く資料はペーパーのものを工夫して編集すればいいとは思いますが、どこに置くかという問題になってくると、全体の平面構成にも関わってきますので、このマガジンラックのような大きいのを置くだけではなくて、何かそこに工夫が加えられればと思うのです。それから、座長の言うように、北海道大学でも発掘調査をしていて、独自の展示室も持っている。そういう場所の連携として、単に案内を置くだけでなく、プラスアルファというか、スペースのデザイン性ということが重要になってくるかと思うのです。そういった工夫があれば良いのではないのでしょうか。ただし、これだけの空間の一体どこに置くのかということもあると思います。今の段階であれば、まだ多少検討の余地はあるかと思ひまして、あえて発言させていただきました。

座長：資料6のGの部分の問題ですね。他に何かございますでしょうか。それでは、時間も大分たってまいりましたので、この議論につきましてはこれで終わらせていただきたいと思います。

次回に向けましては、今回の意見を事務局でまとめていただいて、基本計画案を示してい

ただけるのだらうと思っていますので、それを次回議論したいと思います。

それでは、議事録の署名ですけれども、第1回検討委員会の議事録の署名が残っておりますので、第1回検討委員会議事録の署名を平間先生と川名先生にお願いしたいと思います。今回、第2回検討委員会議事録につきましては、名簿順になりますが、深澤先生と阿部先生にお願いしたいと思います。議事録は、事務局で要旨を取りまとめて、私（座長）が確認したうえで最終的に署名をお願いする形になるかと思います。第1回議事録は遅れてしまいましたが、次回検討委員会までには、今回の議事録と併せて配付していただきたいと思いません。

それでは、議事はこれで終了いたしまして、事務局のほうにお返しします。どうもありがとうございました。

3. 閉 会

事務連絡

- (1) 平成25年1月より、委員謝礼等に係る税額が変更となることを報告した。
- (2) 議事録は、札幌市文化財保護審議会の公開に関する取扱要領に準じて作成し、座長が指名する委員2名の署名により承認する。

以上をもって、平成24年度第2回埋蔵文化財展示室更新検討委員会を閉会とし、第3回検討委員会の開催日程について連絡し、同検討委員会を終了した。

- 次回 第3回埋蔵文化財展示室更新検討委員会開催予定 平成25年1月下旬～2月上旬（日程調整のうえ正式告知）

この会議要旨は、事実と相違ないことを証明いたします。

平成25年2月8日

埋蔵文化財展示室更新検討委員会委員

署名人 阿部一司

署名人 深澤百合子